

持続可能な地域社会をめざす ESD 人材養成



愛知県安城市

市民とともに育む

環境首都 安城

第7次安城市総合計画

2005≫**2014** (平成17～26年度)

安城市の Education for sustainable development

- 市民一人ひとりが地球的な視点に立ち、省資源・省エネルギー・リサイクルなどを実践していく。
- あらゆる施策に環境の視点を取り入れ、自然環境、人間環境について、よりよいものを市民と協働で築きあげていく。

プロジェクト1 環境実践活動を進める人づくり

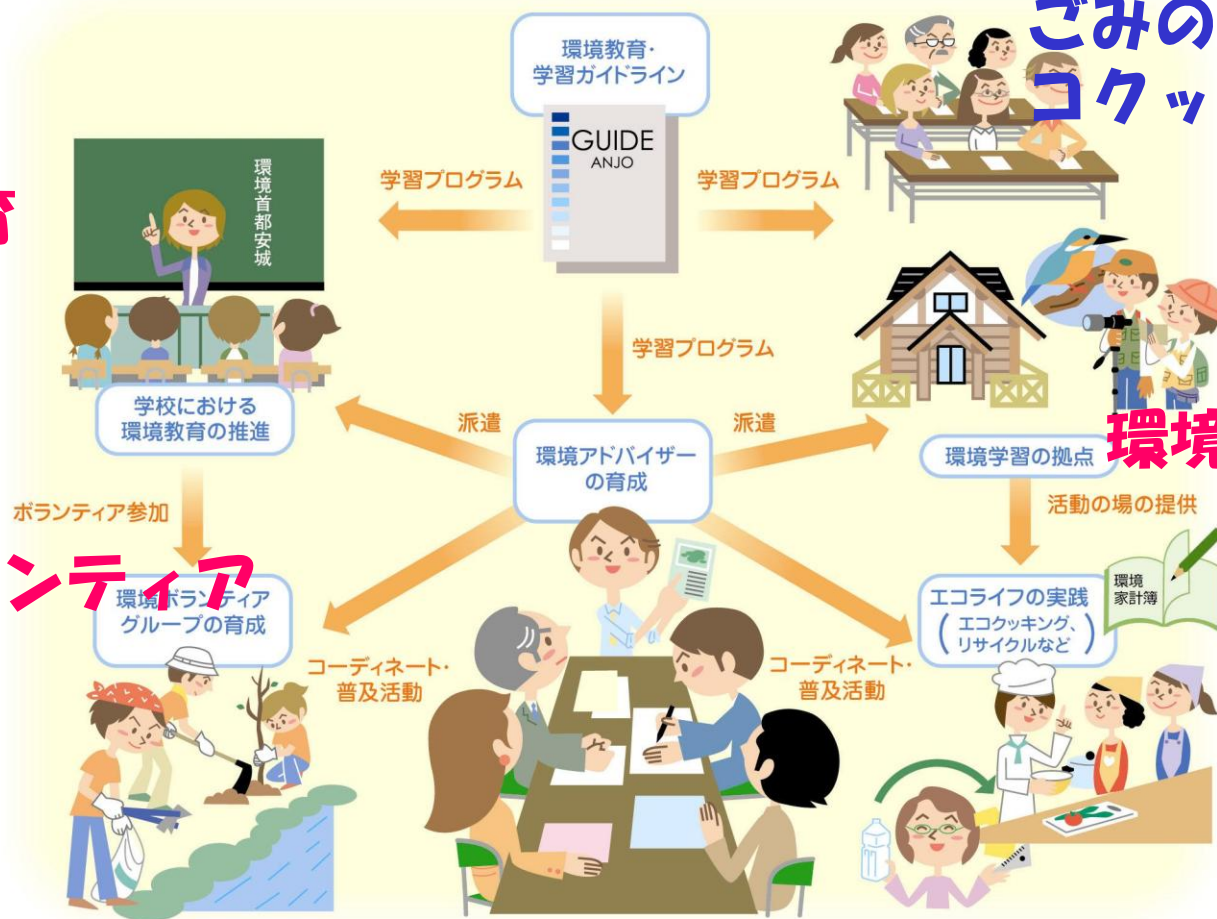
新エネルギー
ごみの資源化エ
コクッキング

環境教育

環境ボランティア

環境学習拠点

環境アドバイザー





環境アドバイザー 制度

■ 環境に対しての専門的、先進的な知識や技術を習得した人を「環境アドバイザー」として登録

■ 小中学校に派遣



環境アドバイザー数の推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20
人数	27	40	40	53	65	45



エコネット あんじょう



平成20年度

安城市

環境首都を目指す





市民との協働で実現する環境首都安城

環境首都を目指す職員研修 エントリースタート

エントリー受付中
締め切り
5月22日

市民との協働で持続可能な地域づくりを目指す安城。しかし市民との協働による地域づくりとひとことで言っても、その実施にはさまざまな課題があります。

安城市では20年度より3年計画で、環境、教育、福祉、経済、多文化共生など多様なテーマにおいて、市民との協働による地域づくりを中心的に進めるリーダーを行政職員と市民と双方に育成するプロジェクト「ESD安城プロジェクト（仮称）」を立ち上げます。

協働に向けた具体的なノウハウを習得するだけでなく、具体的なプロジェクトの計画立案、実施を目指した、実践的な場です。

ファーストステップとして、20年度は安城市の職員を対象として、部署を横断した連続ワークショップを開催します。そして、このワークショップへの参加者が、次年度以降の市民との協働プロジェクトの中心的な役割を担います。

ぜひ、職員のみなさんの積極的なエントリーを期待しています。

副市長 山田 朝夫

20年度 研修ワークショップ 開催スケジュール <開催時間:10時～16時予定(各回共通)>

- | | | | |
|-----|-----------|-------------|------------------------------|
| 第1回 | 5月27日(火) | <オリエンテーション> | 「学習と協働で生み出す、持続可能な地域社会」 |
| 第2回 | 6月17日(火) | <環境> | 「地球環境問題と私たちの暮らし、安城市の未来」 |
| 第3回 | 7月23日(水) | <多文化共生> | 「多様な人々が暮らすまちが抱える課題に取り組む」 |
| 第4回 | 8月1日(金) | <教育> | 「子供が育つ社会環境、学校と地域の教育力の今」 |
| 第5回 | 9月9日(火) | <食と農> | 「これからの一次産業、農のあるライフスタイル」 |
| 第6回 | 9月30日(火) | <経済> | 「地域社会とグローバリズム」 |
| 第7回 | 10月22日(水) | <先進地に学ぶ> | 「環境首都のライバルに学ぶ 持続可能で豊かな地域づくり」 |
| 第8回 | 11月18日(火) | <市民との協働> | 「市民が元気になる秘訣、協働がうまくいく秘訣」 |
| 第9回 | 12月4日(木) | <プロジェクト企画> | 「安城ESD・環境首都づくり プロジェクトをプランする」 |



[総合ファシリテーター]
ESD-J 理事
環境市民 代表理事
松本 育生



■ 合計9回にわたり、9人の強力な講師陣を迎え、延べ50時間に及ぶ長期研修

■ 35人の若手職員が参加

■ 事後課題の検証



平成21年度 あんじょう環境大学院



あんじょう環境大学院

受講生募集!

私たちのまち安城市は、きれいな水と豊かな自然に恵まれ、人情あふれるまちとして歴史を刻んできました。この環境を守り大切に、より良い環境を次の世代に引き継ぐことは私たちの責務であり、市民、事業者、市が手をとりあって取り組んでいかなければなりません。

「あんじょう環境大学院」は、様々な切り口から環境への理解を深めながら、環境首都をめざす安城市らしいまちづくりについて、山田副市長と一緒に考える連続講座です。多彩な講師陣が環境問題について語り合います。

第1回 5/13(水) 持続可能な社会像 ～もったいない資源の実現に向けて～



講師：内藤 正明 氏（環境政策研究センター長、京都大学名誉教授）

考えれば考えるほど、広くて奥深い「環境問題」。「地球にやさしい」ってどういうこと？「持続可能な社会」ってどんなイメージ？ 国立環境研究所や京都大学で長年にわたり地球環境問題に取り組んでこられた内藤先生に、豊富な知識と経験を通して、たとえ話やマンガを使って、環境問題をわかりやすく解説していただきます。あわせて、現在関わっているいろいろな「自然と共生する資源の将来像～もったいない資源」の考え方とその実践事例についてもご紹介いただきます。

第2回 5/27(水) オイルピークと環境問題の本質



講師：石井 吉徳 氏（元国立環境研究所所長、東京大学名誉教授）

豊満で安い石油の時代は終わった。われわれ人類は、文明の大転換点を迎えている。そんな状況の中で、日本が目指すべき「プランB」とは？資源・エネルギー問題の専門家で国立環境研究所の所長も務められた石井先生に、環境問題の本質をエネルギーの観点から読み解いていただきます。『エネルギーは経済の命脈。エネルギーがなければ全てがとまる』『今日の経済危機は1929年のものとは本質的に異なる』など、マスコミ等の環境報道とは異なった視点からの「目からうろこ」のお話です。

第3回 6/3(水) 自転車のみちをつくる



講師：小林 成基 氏（NPO自転車活用推進研究会理事長）

経済不況や環境問題への関心の高まりを受けて、にわかに「自転車」が注目を浴び始めています。その一方で、違法駐輪や交通事故、特に自転車が被害者となる事故の増加が懸念となっています。あなたは、改正道交法の自転車交通ルールを正しく知っていますか？ 日本の交通政策は自転車について真面目に考えてきたのか？小林先生には、国内外の豊富な事例をご紹介いただきながら、どうすれば本当に使いやすい「自転車のみち」をつくれるのか、お話しさせていただきます。

第4回 6/26(金) 食品廃棄物とリサイクル ～生産・流通・消費者の協働でできること～



講師：伊藤 俊一 氏（山崎製パン株式会社安城工場長）
百瀬 則子 氏（ユニー株式会社業務本部環境部長）

日本の食料自給率35%が懸念視される一方で、毎日大量の食品が廃棄されています。その量は、食品製造業から発生するもので年間312万トン。一般家庭、食品流通業、飲食店等から発生するもので年間1,584万トン。後者の大部分は焼却ゴミとなっています。この膨大なムダをなくすることはできないか？伊藤先生には生産者の立場から、百瀬先生には流通・販売の立場から、環境省や農林水産省の審議会委員の経験も踏まえ、廃棄物減量に対する取組みについてお話をいただきます。そして、消費者である会食のみなさんを交えて、生産、流通、消費者の協働でできることはないか、一緒に考えてみたいと思います。

第5回 7/7(火) 都会の百姓～都市型農業体験農園の取組み



講師：白石 義孝 氏（農業体験農園「大泉 風のがっこう」園主）

東京にもまだ「お百姓さん」がいるんです。大都会の郊外に広がる1,3haの白石農園は、一般の「市民農園」とは一味違った「農業体験農園」で、都市住民に大人気。その園主である白石先生に、都市農業の意義と苦労、都会の農地がもたらす思わぬ効果とその広がりを、これまでの取組みを踏まえてお話しいただきます。かつて「日本デンマーク」と呼ばれた安城市、近年都市化が進展しています。アグリライフ構想や安城市の将来像を考える上で、大きなヒントをいただきたいと思います。

第6回 7/21(火) 日本の農と食をどうするか？～日本の食料自給率と国際戦略



講師：長野 麻子 氏（農林水産省政策課課長補佐）

安城市出身の長野先生は、農林水産省のキャリア官僚として、構造改革、バイオマス戦略、日米牛肉交渉などに携わってこられただけでなく、フランス留学や海外への出向など幅広い経験を持ち、現在は農水省改革の仕事を担当されています。日本の農・食はこのままでよいのか？ 豊富な経験と人脈をもとに、あるさと安城市はこれからどのようなまちづくりをしていけばよいのかについて、自論を熱く語っていただきます。

第7回 8/7(金) 日本の森林と林業の現状



講師：小木曾 亮次 氏（梶羽村長）

「安城市は梶羽村に森を持っている」という耳にしたことはあるけれど、その経緯や実態を知っている人はあまり多くないと思います。梶羽村の村長は、人口1,200人、高齢化率42%の梶羽村の活性化のために、日夜奮闘を続けています。まさに村長の「お父さん」的存在。日本の森林・林業・中山間地の農村の未来について、村長自ら、現場の生の声で伝えていただきます。荒れる森林・農村を放置したままでは本当にいいのか、一緒に考えてみましょう。

- 講演内容 講演（90分程度）と山田副市長と講師を交えたディスカッション
全7回連続講座のため、各回ごとの申し込みはできません。
- 対象 市内の在住・在学・在勤の人
- 定員 30人程度（応募者多数の場合は抽せん）
- 時間/会場 すべて午後1時30分～午後4時/文化センター大会議室
- 申し込み 4月6日(月)～14日(火)に氏名、年齢、住所、連絡先を記入の上、郵送、ファクス、メールで下記へ
- 問い合わせ、申し込み先 安城市経済環境部環境推進課 〒446-8501安城市桜町18番23号
電話 71-2206、FAX 76-1112、メール kankyo@city.anjo.aichi.jp

氏名			
住所	〒	—	安城市
電話番号			

このままファックスしてください。（送付料不要）

環境首都推進課 (FAX 76-1112)



あんじょう環境大学院 (後期)

よい環境を守り、将来に引き継ぐためには、市民、事業者、市のそれぞれが、様々な環境に対し関心を持ち、その現状や人間と環境との関わりについて理解し、日常生活や社会活動において連携・協働して環境保全に取り組んでいくことが重要です。

「あんじょう環境大学院」は、市民、事業者、市職員が一緒に参加し、環境首都をめざす安城らしいまちづくりについて、山田副市長とともに考える連続講座です。後期も多彩な講師陣が環境問題について鋭く迫ります。

受講生募集!

第8回 10/13(火) デンマークという国 ～なぜデンマークは社会福祉国家、自然エネルギー先進国となりえたのか?～



講師：ケンジ・ステファン・スズキ 先生 (環境活動家、SRAデンマーク「風のひろく」代表)

昨年来の世界的な経済不況とそれが引き起こした様々な問題の中で、「デンマーク」という国が注目を集めています。今年3月に来日された近藤謙一氏 (在デンマーク日本大使) によれば、「輸出が減少して失業率も上がっているが、国全体ではまだまだ余力があり、社会保障システムもうまく機能している。」とのこと。食料自給率300%、エネルギー自給率158%の国はなぜできたのか? デンマークへ渡り、日本とデンマークを往復しながら、環境関係など様々な事業を手がけていらっしゃるケンジ・ステファン・スズキ先生に、その話を聞き取っていただきます。

第9回 10/27(火) 生物多様性とは何か? ～星久島の作法～



講師：小野寺 浩 先生 (鹿児島大学学長補佐、鹿児島県環境担当参事、元環境省自然環境局長)

来月10月、愛知県で「DOP10」(生物多様性条約締結国会)が開催されます。「地球温暖化」と並んで地球環境問題の2本柱の一つである「生物多様性」。でも、それっていったい何なの? 小野寺先生は、環境庁にレンジャーとして入り、国立公園の自然保護、第4次全国総合開発計画、星久島の世界遺産登録、阿蘇の草原保護などに携わられ、環境省自然環境局長として「生物多様性国家戦略」の策定責任者として活躍されました。知床から西表まで、日本の自然を知りぬいている先生に、「生物多様性」とは何か、人は自然とどのように向き合っていくべきなのか、お話をいただきます。

第10回 11/11(水) エネルギーを暮らし ～私の環境論～



講師：原 圭子 先生 (エッセイスト)

「低エネルギーで暮らさなければならぬのは、頭では理解できたが、実際そんな不便な生活にたえられるだろうか?」第1回「持続可能な社会」や第2回「オイルショック」の巻頭から、そんな感想が多く出されました。原圭子先生は東京育ち。80年代のアイドル全盛時には作詞家として数々のヒット曲を生み出し、その後エッセイの執筆活動に、98年に京都に移住し、10年前から建築家の夫と「町家暮らし」を始め、京都の暮らしや文化についてのエッセイなど多数の著作を出版しています。「不便な暮らしを知らなくては、エコも地球にやさしい暮らしも机上の空論なのではないでしょうか。」とおっしゃる先生に、原圭子「不便を楽しむ、心穏やかに、豊かに生きるコツ」をお話していただきます。

第11回 11/26(木) 環境と共生する都市・建築



講師：エクハルト・ハーン 先生 (ドルトムント大学空間計画研究所所長)

「持続可能な都市」の具体的な形はどのようなものなのでしょうか? その実例は、日本にはまだないようです。ハーン先生は、ドイツにおけるエコロジカルな都市計画の第一人者。ベルリンの都市開発や東京のウォーターフロント、数米各地や中国でも、アドバイザーとして活躍。「都市は人間が自然とどう付き合おうとしているのか如実に表れるものであり、人間は自然の一部としての自覚が必要」と主張されています。ご自身がヨットマンでもあり、「これからの世の中は“タンカー社会”ではなく、クルー全員が参画意識を持って、自然の力を利用して快速に運行する“セーリング社会”への転換が必要」とも、安城の「まちづくり」へのアドバイスがいただければ幸いです。

第12回 12/16(水) 地球と生きる家 ～パッシブハウスはゼロエネルギー住宅～



講師：野沢 正光 先生 (建築家、日本建築家協会環境建築賞審査委員長、武蔵野美術大学客員教授、横浜国立大学・東京藝術大学非常勤講師)

持続可能な住まい、暮らし方が得られる中で、注目されているのが「パッシブハウス」。太陽熱、地熱、風、バイオマスなどの自然エネルギーを上手に利用し、冬暖かく、夏涼しい家のことです。私たちが生きていくためには暖房は欠かせません。住まいは外界の嵐しさから「人々」を守る「第二の表皮」。窓式仕様がパッシブハウスの形であるのはなぜか。石造や電気に依存する20世紀の住まいの特徴はどこにあるのか。日本の目指すゼロエネルギー住宅の姿はどこにあるのか。環境建築の第一人者である野沢先生に、豊富な事例を踏まえ、21世紀の日本の住まいの行くべき道をわかりやすく語っていただきます。

第13回 12/22(水) 「ふりかえり」と「環境首都・安城」のこれから

講師：山田 朝夫 (安城市副市長)

全12回の「あんじょう環境大学院」の内容をふりかえり、「市民とともに育む環境首都・安城」のこれからを考えます。

- 講座内容 講演(90分程度)と山田副市長と講師を交えたディスカッション。各自ごとの申し込みはできません。
- 対象 市内の在住・在学・在勤の人
- 時間 すべて午後1時30分～午後4時
- 会場 8・9回は、安城市教育センター大研修室
10～13回は、安城市文化センター3階大会議室
- 申し込み 9月14日(月)までに電話又は氏名、年齢、住所、電話番号を記入し、ファクス、Eメールで申込みください。
- 問い合わせ 安城市経済環境部環境首都推進課 〒446-8501 安城市板町18番23号
電話 71-2206、FAX 76-1112、メール kankyo@city.anjo.aichi.jp

ふりがな			
氏名		年齢	歳
住所	〒 ー 安城市		
電話番号			

このままファックスしてください。(返信不要)

環境首都推進課 行 (FAX 76-1112)



そして子どもたちへ...



エコスクール

講師 アウトドアタレント 鉄崎幹人



エコスクール

川の学校



田んぼの学校



森の学校

企業の地域貢献

- 市内企業が地元の小学校に対して「環境プログラム」を長野県根羽村で開催
- 間伐体験で森の大切さを体感



